



お預かりサービス始めました!!
 美家の仏壇にお位牌を置きっぱなし...
 今すぐお墓を建てられない...
 仏壇を置く場所がない...
 など、悩み事がつきないご時勢。

そんなお悩みに...

各家庭によってお悩みはそれぞれあると思いますが、時間的な余裕が出来る事で、じっくりと考え「悔いのない供養」をして頂きたいとの思いから誕生したのが、この「お骨・お位牌お預かりサービス」です。

この「お預かりサービス」では、今後の供養方法について親族達と相談し、納得して決めるまでの一定期間（10年間）お骨やお位牌を奈良山供養塔納骨室で大切にお預かりします。そして「お預かりサービス」の契約終了までに、当苑での埋葬（建墓・樹木葬・永代供養）をご契約頂ければ、お支払いただいている金額は全額差し引きさせて頂きます！尚、毎月第4土曜日説明会を行っていますので（個別対応はご予約下さい）詳しくは管理事務所までお問合せください。

3月の【合同法要祭】では、お預かりサービスを始め、皆様のお悩み・ご相談も聞かせください。微力ながらお力になりたいと思っています。お花見がてらお越し下さい。霊苑の桜も咲き始める頃です。

春の3/31(日) 合同法要祭

大切な人を偲ぶ...

9:30~

樹木葬霊域法要



10:00~

永代供養塔霊域法要



催し物 10:30~15:00



いろいろな催し物をご用意していますので、ご近所お誘いあわせの上、こそってお越し下さいませ~

胸キュンの年賀状♪

ご紹介しま〜す。

「僕よ!」
 日曜日には、息子からの電話が鳴る。「うん元気じゃ。人は一生成長するものとか今一老いを愉しむ心理学、勉強しとるがよ」
 「あ、安心した」
 この僅かな会話、だが親と子との想いは山ほど巡る。当たり前と人は言う。そうであろうか?
 「鈴鹿は寒かろう風邪ひきさんなよ!」
 何故かこみあげてくる。(宇和島在住)

父と息子がお互いを心配する言葉のキャッチボールに胸の奥がホンワリ温かくなります。次に逢える日がとっても待ち遠しいですね♪
 さて、平成最後になります。皆さんはどんな年にしたいですか?子供の成長と共に家族が揃うことが少なくなった私は、誰かの歌詞にあったように、家族が団欒するたわいもない日々を堪能したいな...

いまさら聞けない 専門用語特集

これってなに?

どうも、こんにちは ☺ No.1
 このコーナーでは、私が新人時代に疑問に思った専門用語を解説します!!



供養(くよう)

・仏壇にご飯や水を供える、墓前にお花を飾る、手を合わせるなど...大切な人の冥福を祈って行われる行為
 ・仏教的には、供養の目的は功德くどくをつむこと。供養の目的で得た功德を故人に送ることが供養ということ。

功德(くどく)

・見返りを求めない良い行い(徳)を積むこと

お布施(おふせ)

・仏事を通してお世話になった謝礼。お寺への寄付の意味もある。僧侶に対する労働の対価ではない。
 ※金額は地域により異なります。

耳より情報!

大切なお念珠(数珠)が切れてしまって、ガッカリしたことありませんか? 繋ぎ直して使用できますよ。珠数が足りない場合でもご安心下さい。有料にてお直し承ります! (要日数: 1~2週間)

霊苑でホーホケキョ♪と鳴くうぐいすの音が聞こえますが、その姿を見たことはありません。「別名“春告げ鳥”と呼ばれるそうです。春はそこまで来ています。花粉症も...

お彼岸 豆知識

お彼岸は、仏教と深い関係がありますが、実は日本特有の習慣なんです。彼岸は極楽浄土とされておあり、西方の遥かかなたにあると考えられていました。そこで、太陽が真東から昇り真西に沈む「春分の日」と「秋分の日」は現実の世である此岸(しがん)と彼岸(ひがん)の両方の世界が通じやすくなると考えられたため、お墓に行ってお先祖様を偲び、故人と向き合う日とされるのです。お墓や仏壇の掃除をし、お花を手向け、お供え物をし、ご先祖様に感謝の気持ちを伝えましょう。

今年の春彼岸

3月18日(月) ~ 3月24日(日)

管理事務所では、仏膳セットのお箸一膳、仏飯器や湯呑の一個より取り扱っています。新調するならこの機会に如何ですか。お問合せください。

★お墓セミナー (参加費・無料)
 毎月第2木曜日 管理事務所2階にて
 次回 3月14日 午前10時~12時迄
 いろいろな豆知識を得られますよ!

発行元：奈良山霊苑管理事務所
 〒798-1351
 愛媛県北宇和郡鬼北町奈良4230-1
 電話番号 0895-45-0164
 http://narayama-reien.jp
 営業時間 9:00~17:00
 定休日 日曜・祝祭日

専務のコラム



私が二十歳の誕生日を迎えた4日後、そして長男である社長が結婚式を挙げた一週間後に他界した母の三十三回忌法要が、先月、親戚一同が会して賑やかに執り行われた。

昭和36年、母は23歳で山下家に嫁いできた。健康にして明朗快活で、私達3人の子供を産み育てながら、働き者の父と共に朝から晩まで仕事をしていた一方、休日にはバレーボールの大会に出ていくような活発な女性だった。

来客があれば、父が隠していた(笑)高価なブランデーをグラスになみなみ注ぎ、慌てる父(お客さんも慌てる)に向かって「ケチケチしさんな」と笑い、泊まり客あれば、朝食に厚切りステーキを出して「おかわりしなさい」と強要していた。

食事の支度をしているときにはしょっちゃん皿を割っては「形あるものは壊れる!」と変な言い訳をするし、車を運転すれば信号無視で警察に止められ、謝るのかと思いきやドヤ顔で「横の信号は青だった!」と言ってみたり、とにかく母はそそっかしくて豪快でよく笑いよく怒る人だった。



そんな病気とは無縁と思われた母が白血病で倒れたのは、私が中学3年卒業間近、母は当時まだ42才だった。

それからというもの、笑い声が絶える事の無かった家の中が一変した。父は仕事を終わると入院している母に付き添うために毎晩病院へ行き、私と次男の兄は高校の部活を終えて帰宅すると、父が買ってくれたお惣菜を黙々と食べるという生活になった。

土日は部活の後病院へ会いに行くと嬉しそうにしていた母だったが、帰るときには寂しそうに、病室の窓から手を振りながら見えなくなるまでずっと見送ってくれていた。

今思えば、どんなに辛かっただろう、どんなに心配だっただろうと胸の内を推し量るが、私たちの前ではいつも笑っていた母だった。それから入退院を繰り返した5年後の2月、寒い朝に母は静かに息を引き取った。

「よう頑張った」と一言、ずっと窓の外を見ていた父の背中が今でも私の目に焼き付いている。

三十三回忌法要では、喪主である社長が母の思い出を涙ながらに語り、「今、自分たちが居て、私たちの子供たちも結婚し孫も出来、幸せに暮らしていけるのは全て亡くなったご先祖のお陰」と、長い長い挨拶をした。(ホントに長かった・・・)

母が亡くなってから32年。私も母の年齢をとっくに越え、会うことが叶わなかった私たちの子供も、いつしか結婚をする年齢になった。

折りしも一週間前には、私が町議会選挙に初当選したばかりでもあり、集まった親戚の皆さんの話題のネタにはもってこいだった。

この場をお借りして、ご心配頂いた方々に心よりお礼を申し上げます。

命を与えてくれた先祖・両親に恥じないように、そして常に思いやりと感謝の心を忘れないようにと改めて心に誓った一日であった。

